

雜なる洞穴を作り夏冬共に無数の蝙蝠棲息し洞底には糞尿堆積して泥土狀をなし殊に冬期には無数密集して天井に懸垂し暖かき洞奥に冬眠を貪つて生活す(此の洞穴内は冬期は可なり温度高く暖房の如き感あり) 蝙蝠は菊頭多數にしてアブラムシも混棲す。後者は鳴澤の部落を過ぎて西に出で青木ヶ原丸尾の縣道に接する處より南方三四丁の處にあり西湖の蝙蝠穴に次ぐ。夏日此の洞内に入れば驚きて飛翔する無数の蝙蝠は羽音凄じく其の糞堆積して厚層をなせり洞穴は約二十間高サ一丈内外幅四五間位あり。以上二洞穴は蝙蝠の棲息する點に於いて蓋し嶽麓の一異觀なれば天然物愛護に無心なる人の濫入を防止し適當に保護を加へて此の小動物の遁逃を避けたきものなり。

熔岩樹型

所在地 南都留郡鳴澤村部落の西方

同 弓射塚附近

何れも青木ヶ原熔岩流中に生じたるものにして其の樹型をなすは此の熔岩噴出の以前に生育したる樹林の有りたることを証するものにして熔岩が流出するに當り其の樹林を焼き盡し

六〇
偶々樹幹を包みて流下したる熔岩が内部の木質を燃焼して樹幹の型を残したるものなり。現在の青木ヶ原の所謂樹海は此の熔岩流の上に生じたる森林にして貞観六年青木ヶ原熔岩流下を劃して其の前後の自然界の状況を物語る貴重の天然物として保護すべきものなり。

雁の穴

所在地

南都留郡福地村小倉山の南方に位し同村新屋部落より十二三丁の所にあり。

富士山の熔岩洞穴の一種なり、富士山の四周に多数散在する熔岩洞穴は大抵横穴式なるに此の雁穴は横穴の外に多数の堅穴を有するを特色とす、而して列をなし殆んど一線上に現出する所より見れば明かに熔岩流所謂丸尾の中の瓦斯脱出と共に熔融体を放出して面白き堅穴を現出したるものなり、中にも棍棒山と稱するものゝ如きは一見火山の噴火口の小型型を見るの感あり、其の深さ二十二、三尺、直径三、四尺にして其の他のもの五六の堅穴は何れも深さ十尺乃至十七八尺、直径は二尺乃至三、四尺の圓塔状堅穴なり。又熔岩洞穴の上部陥没して横穴を現出し、兩端更に洞穴に連続し、夏日多数の蝙蝠群キクガシラの棲息を見る。近時縣に於て保存をなすこととせり。



雁の穴

富士嶽麓の天然物

前記天然紀念物の外富士山並に嶽麓の天然物中特色を有し保存の必要あるもの胎内、火山彈、火山皿、索狀熔岩の如き、フジザクラ、フジヨモギの如き躑躅ヶ原のレンジツ、ジの群落の如き、其他青木ヶ原熔岩流の上に繁茂せる樹海の如き、其の他の林相、草原等一木一草の末と雖も山容秀麗の比類無き一大燒岩の富嶽に配せられたる自然美は總てを完全に保護するは望ましきことなり。

145
179

大正十五年六月二十五日印刷
大正十五年六月二十八日發行

山 梨 縣

印刷者 甲府市橋町一番地 箕輪庄太郎
印刷所 甲府市橋町一番地 山梨勞資新聞社印刷部

14.5
179

終